

2020年2月10日(月)

水槽のカバーを取ります

1月31日からエサをあげてようすを見ています。
はじめは人が近づくと逃げまわっていましたが、今では水面まであがってきてエサを待つようになりました。

もう暗くなくてもよいのでカバーはずし、日中はハヤのあかりをつけたままにすることにしました。

明るいときエサを食べますが、暗いと寝てしまうからです。



ハヤのあかりをつける前のサケは下の方にしずんで寝ています。



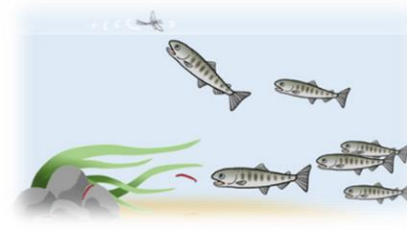
サケ用のエサ



あかりをつけるとゆっくりと浮上しはじめました。エサを待っています。



川の中で生まれたサケは、川の中の虫を食べています。



2020年2月26日(木)

川でサケをさがしました

川で生まれたサケも、今ごろりっぱな稚魚になって泳いでいるはずですよ。

そう思って、旭橋の下で、稚魚をさがしてみました。

すると・・・何か泳いでいます!!



ワクワクしながらすくってみたら・・・



うーん、おいしい、ヤマメの稚魚でした

サケとヤマメの稚魚のちがいがわかりますか?

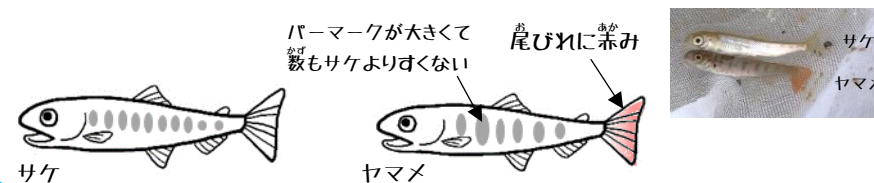
飼育しているサケの稚魚



川にいたヤマメの稚魚



ヤマメもサケのなかまなので、姿がとてもよく似ています。サケとヤマメの稚魚を見分けるポイントはからだの丸い模様(パーマーク)と尾びれの色です。



2020年2月28日(金)

ケンカをするサケたち

朝、水槽をのぞいておどろきました。サケの稚魚が別の稚魚を口にくわえて泳いでいたのです。



「えー！、まさか、共食い!?」

とあせりましたが、ケンカをしていただけのようで、すぐにはなれました。

おとなのサケがはげしいケンカをするところは何度も見ましたが、稚魚のうちからかみつきあいの、はげしいケンカをするとは思っていませんでした。



おとなのケンカ (豊平川さけ科学館模型)

ケンカの理由はどちらも良い場所をとるためです。稚魚のときは流れてくるエサを誰よりも先に食べられるように、水の流れる先頭をめぐって、おとなになったら自分の子孫を残すためにメスの近くをめぐってケンカをします。

ただ、ふしぎなことに、ふたつの水槽のうち左の水槽のサケはケンカが多く、右の水槽のサケはケンカが少ないのです。

ケンカの多い水槽

ケンカの少ない水槽



特にケンカがはげしいのはさいころの丸のところですよ。エサのとき以外はなぜかそこだけ空いていることが多いです。

水の流れる方向は同じなのに、フンのたまり方にもちがいがあるので、もしかすると、水の流れ方や強さが影響しているのかもしれない。